

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

平成17年度病害虫発生予報第6号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成17年度病害虫発生予報第6号(9月)

【普通作物】

作物名	病害虫名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
水稻	穂いもち 紋枯病 トビイロウンカ コブノメイガ 斑点米カメムシ類	少ない 多い 並 少ない 多い	少ない 多い 並 少ない 多い
大豆	ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類	やや多い 少ない	やや多い やや少ない

斑点米カメムシ類は前年対比。

【普通作物 - 普通期水稻】

1 穂いもち

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、葉いもちの発病株率は0.2%（平年：5.5%、前年：3.0%）、発生ほ場率は8.5%（平年：35.4%、前年：27.9%）であった。

イ 同時期の穂いもちの発病穂率は0.0%（平年：0.3%、前年：0.1%）、発生ほ場率は6.1%（平年：35.6%、前年：19.5%）であった。

ウ 気象予報では9月の平均気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並と予想されている（以下の病害虫についても同じ）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 穂いもちは収量に影響を及ぼすので、上位葉に葉いもちの病斑がみられるほ場や常発地

では、穂揃期に2回目の防除を行う。
イ 薬剤については「平成17年度普通作物病害虫防除の手引き」を参照する（以下の病害虫についても同じ）。

2 紋枯病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、発病株率は17.7%（平年：6.8%、前年：6.7%）、発生ほ場率は55.9%（平年：54.4%、前年：44.3%）、発病度は5.7（平年：2.3、前年：2.1）であった。

3 トビイロウンカ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、たたき落としによる10株当たり成幼虫数は0.8頭（平年：1.5頭、前年：1.9頭）、発生ほ場率は37.3%（平年：32.0%、前年：39.3%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

要防除水準（8月下旬の発生量が100株当たり100頭、9月下旬では100株当たり1,000頭）を超える場合は早急に防除を実施する。

4 コブノメイガ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少ない

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、食害株率は6.4%（平年：22.5%、前年：20.5%）であった。また、上位2葉の食害葉率は0.2%（平年：1.9%、前年：1.6%）であった。

5 斑点米カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：前年より多い

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、片振り20回すくい取りによる斑点米カメムシ主要3種（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類）は本田で1.8頭（前年：0.2頭）、畦畔で4.8頭（前年：1.3頭）、雑草地で5.6頭（前年：6.1頭）であった。カスミカメムシ類は本田で2.6頭（前年：0.6頭）、畦畔で7.4頭（前年：2.9頭）、雑草地で42.8頭（前年：19.4頭）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

斑点米の発生が多い地域や周辺にイネ科植物（エノコログサ、イヌビエ類等）が繁茂した雑草地があるほ場では、1回目防除の7～10日後に2回目の防除を行う。

【普通作物 - 大豆】

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、たたき落としによる25株当たり幼虫数は48.8頭(平年：12.3頭、前年：37.7頭)で、発生ほ場率は63.2%(平年：52.7%、前年：73.7%)であった。

イ 8月のフェロモントラップ(筑紫野市)による誘殺虫数は557頭(平年：736頭、前年：1463頭)であった。

ウ 気象予報では9月の平均気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並と予想されている(以下の病害虫についても同じ)。

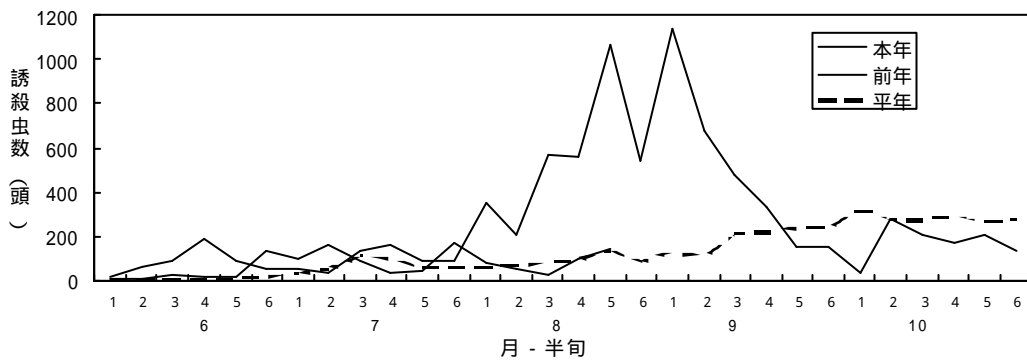
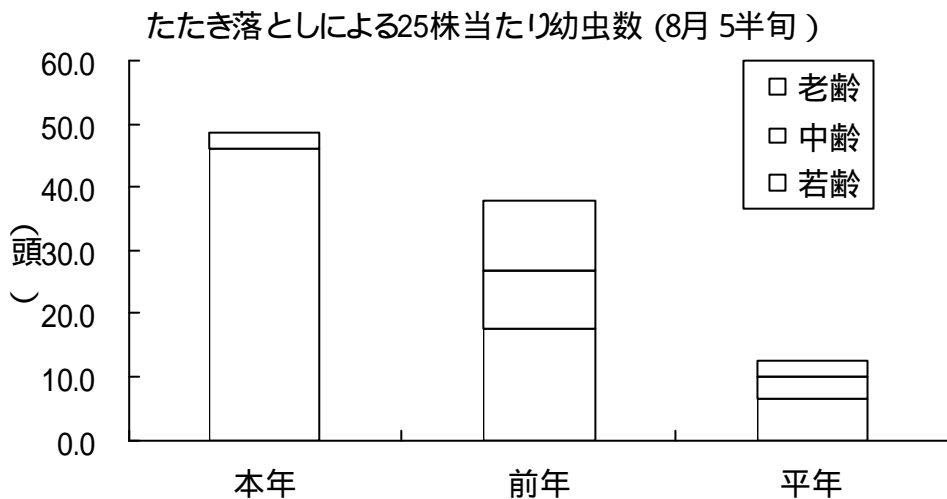
(3) 防除上注意すべき事項

ア 若齢幼虫が群棲している白変葉は直ちに除去する。

イ 薬剤防除は防除効果が高い若齢幼虫期に実施する。

ウ フェロモントラップの誘殺ピークから10日目頃が防除適期となるが、前後することがあるため、ほ場での白変葉の発生を確認し防除を行う。

エ フェロモントラップによる誘殺状況は、病害虫防除所のホームページを参照する。



ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺虫数の推移 (筑紫野市)
1: 武田式乾式トラップ 2: 7月1~3日は欠測

2 吸実性カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、たたき落としによる25株当たりの主要3種カメムシ類（アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシ）の成幼虫数は0頭（平年：0.3頭、前年：0.2頭）、発生ほ場率は0%（平年：14.8%、前年：10.5%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 現在開花期を迎えているほ場では、カメムシが集中するおそれがあるので注意する。

イ 幼莢期から子実肥大期の加害が多いので、この時期の防除を徹底する。なお、防除は着莢部に薬剤が十分付着するように散布する。

ウ カメムシ類は広範囲に移動するので、薬剤散布は出来るだけ広い地域を一斉に行うと効果が高い。

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
カンキツ	黒点病 ミカンハダニ	やや少ない やや多い	やや少ない やや多い
カキ	炭疽病 うどんこ病 フジコナカイガラムシ ハマキムシ類	やや少ない 少ない やや多い 並	やや少ない 少ない やや多い 並
果樹共通	カメムシ類	少ない	少ない

【果 樹】

1 カンキツ黒点病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発病果率は1.1% (平年：3.6%、前年：3.1%) であった。

イ 気象予報では9月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている (以下の病虫害についても同じ) 。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 降雨が続くと多発するので、前回薬剤散布後の積算降水量250mmを目安に降雨の合間をぬって防除を行う。

イ 感染源の枯れ枝を極力除去する。

ウ 収穫期に入る極早生種は、農薬使用基準を確認し、薬剤の選定を行う。

(以下の病虫害についても同じ) 。

2 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、寄生葉率は22.5% (平年：16.1%、前年：10.6%) であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除は、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

3 カキ炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発病枝率は0%（平年：1.0%、前年：0.1%）、発病果率は0.2%（平年：0.8%、前年：0.3%）であった。

イ 気象予報では9月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている（以下の病害虫についても同じ）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病枝及び罹病果は、感染源になるので除去する。

イ 罹病枝及び罹病果の多い園では、降雨により感染が拡大するので、薬剤防除を徹底する。

ウ 収穫期に入る早生種は、農薬使用基準を確認し、薬剤の選定を行う。（以下の病害虫についても同じ）。

4 カキうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年より少なく、前年並

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、発病葉率は0.2%（平年：11.6%、前年：2.5%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

秋期は発生が増加するので発生状況に注意する。

5 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、寄生果率は17.3%（平年：10.1%、前年：12.9%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

防除は、ヘタの下や葉と重なった果実の表面などに、薬剤がかかるよう丁寧に散布する。

6 カキのハマキムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、被害果率は1.2%（平年：0.9%、前年：2.4%）であった。

7 果樹共通のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少ない

発生時期：後期発生型で9月～10月

(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシ

8月1半旬～5半旬までの予察灯(県内6カ所平均、以下同じ)での誘殺虫数は、115頭(平年:2,613頭、前年:12,613頭)、集合フェロモントラップ(筑紫野市吉木、以下同じ)での誘殺虫数は、0頭(平年:5,246頭、前年:15,924頭)であった。

イ ツヤアオカメムシ

同時期の予察灯での誘殺虫数は、15頭(平年:251頭、前年:344頭)、集合フェロモントラップでの誘殺虫数は、0頭(平年:170頭、前年:186頭)であった。

ウ カキの被害果率

8月5半旬調査の結果、被害果率は0.1%(平年:2.0%、前年4.5%)であった。

エ ヒノキ球果1果当たり口針鞘数

8月5半旬調査の結果、平均で4.0本(前年:10.5本、前々年:2.4本)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生は少ないが、今後園内への飛来に注意する。

イ 果樹カメムシ類の発生状況は病害虫防除所ホームページに掲載しているので参照する。

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
茶	炭疽病	やや多い	やや多い
	もち病	少ない	やや少ない
	輪斑病	多い	多い
	カンザワハダニ	やや少ない	並
	チャノホソガ	少ない	やや少ない
	チャノコカクモンハマキ	やや多い	やや多い
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	並
	チャノキイロアザミウマ	やや多い	やや多い

【茶】

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発病葉数は 1 . 1 葉 (平年 : 0 . 7 葉、前年 : 0 . 5 葉) であった。

イ 気象予報では9月の平均気温は高く、降水量は平年並と予想されている (以下の病虫害についても同じ) 。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 整枝後の残葉での発生に注意し、萌芽から 3 葉期までに薬剤防除を実施する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する (以下の病虫害についても同じ) 。

2 もち病

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、発病葉数は 0 葉 (平年 : 0 . 1 葉、前年 : 0 . 5 葉) であった。

(3) 防除上注意すべき事項

降雨が多いと感染し発病しやすくなるため、被害発生のおそれのある園では、萌芽から 1 葉期までに薬剤防除を実施する。

3 輪斑病

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、発病葉数は 6 . 1 葉 (平年 : 0 . 5 葉、前年 : 0 . 3 葉) であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア タ立ちなどの降雨により感染が拡大し、また、台風等の強い風雨の後では、葉や茎の傷口の増加によって急速に病害が拡大する場合がありますので注意する。
- イ 発生のおそれのある園では、降雨後速やかに(翌日までに)薬剤防除を実施する。
- ウ 発生園では、新梢枯死症も発生しやすいので注意する。

4 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、寄生葉率は1.1%(平年:1.7%、前年:0.3%)で、寄生虫数は3.7頭(平年:5.1頭、前年:0.2頭)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上である場合は防除を行う。

5 チャノホソガ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、巻葉数は0葉(平年:2.5葉、前年:0.7葉)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア ほ場での成虫の発生に注意し、発蛾最盛期の7日後に防除を行う。
- イ 秋季は発生が多くなるので、発生の多い園では2から3葉期までに必ず防除を行う。

6 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報の内容

- ア 発生時期: 平年・前年並
- イ 発生量 : 平年よりやや多く、前年より多い

(2) 予報の根拠

- ア 8月5半旬調査の結果、巻葉数は1.1葉(平年:0.7葉、前年:0.5葉)であった。
- イ 4月1半旬~8月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである。
筑後市 1311頭(平年:1462頭、前年804頭)
八女市 2930頭(平年:2066頭、前年419頭)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 第3世代成虫の発蛾最盛期は平年並の9月1半旬~2半旬頃と予想されるので、ほ場での成虫の発生に注意し、発蛾最盛期の7日後に防除を行う。
- イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

7 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年並

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、たたき落としによる虫数は平均0.3頭(平年:0.3頭、前年:0.2頭)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし (A 4 版白紙上) で 4 頭以上確認された場合は防除を行う。

8 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

8 月 5 半旬調査の結果、たたき落としによる虫数は平均 6 . 2 頭 (平年 : 2 . 7 頭、前年 : 2 . 1 頭) であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし (A 4 版白紙上) で 1 0 頭以上確認された場合は防除を行う。

【野菜】

作物名	病害虫名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 鱗翅目類	少ない 並 やや少ない やや多い やや多い	少ない 並 並 並 やや多い
ネギ	シロイチモジヨトウ	並	並
野菜共通	ハスモンヨトウ オオタバコガ	並 並	並 並

アスパラガスの鱗翅目類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、成茎における寄生株率は8.9%（平年：1.9%、前年：1.0%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難になるので、発生状況に十分注意し初期防除を徹底する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス

<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka>

電子メールアドレス

kfok0301@sp.jppn.ne.jp

九州北部地方（山口県を含む） 1か月予報

（8月27日から9月26日までの天候見通し）

平成17年8月26日

福岡管区气象台発表

< 予想される向こう1か月の天候 >

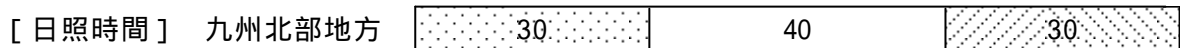
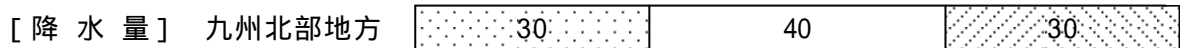
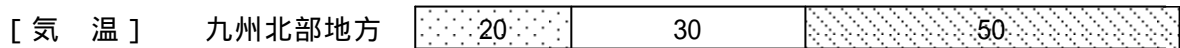
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。




九州北部地方では、天気は数日の周期で変わりますが、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は高く、降水量、日照時間はいずれも平年並でしょう。

週別の気温は、1週目、2週目、3～4週目はいずれも平年並が高いでしょう。




< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％） >



 低い(少ない)  平年並  高い(多い)

< 気温経過の各階級の確率（％） >



 低い  平年並  高い

< 予報の対象期間 >

1か月 ： 8月27日（土）～ 9月26日（月）

1週目 ： 8月27日（土）～ 9月 2日（金）

2週目 ： 9月 3日（土）～ 9月 9日（金）

3～4週目 ： 9月10日（土）～ 9月23日（金）

< 次回発表予定等 >

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は9月2日

3か月予報：9月22日（木） 14時00分

寒候期予報：9月22日（木） 14時00分